

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172900672		
法人名	東光ヘルパーステーション 株式会社		
事業所名	グループホーム みのり		
所在地	北海道旭川市永山3条18丁目1番5号 (電話) 0166-48-2123		
評価機関名	タンジント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年10月28日

## 【情報提供票より】(平成20年9月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年7月6日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	25人	常勤	13人, 非常勤 12人, 常勤換算 14.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	一人部屋 27,000円 夫婦部屋 40,000円	その他の経費(月額)	9,900~15,900円	
敷金	有( ) 無( )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 無( )	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	8名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 82歳	最低	72歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	都丸内科クリニック クリア歯科クリニック
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自由な発想で、自由に想像し、自由に姿を変える」というグループホームで在りたいとの思いを大切にしながら6年前に開設した事業所です。これまで築き上げてきた実績や信頼を活かし、研修生の受け入れや地域との関わりにおいても基本理念の実践を基に積み重ねてきている。また職員ごとに排泄管理、実習生指導、感染予防・口腔ケア、ヒヤリハット等の担当制が取られスキルアップにもつながっている。利用者の体調確認とコミュニケーションを目的とした、朝・夕2回の足浴の実施、また点滴栄養になった利用者に対し「もう一度笑顔が見たい」という職員の思いから真摯なケアに取り組み、元気を取り戻すなど各利用者に合わせた良質なサービスが提供されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題として、運営推進会議の定期開催・認知症の講習会の地域住民への呼びかけがあげられていましたが、運営推進会議はおおむね3ヶ月に一度を目指し、地域住民への講演会の呼びかけは玄関口に掲示する等、改善に取り組んだことが確認された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回が5回目の評価であり、過去の評価で得た改善点は管理者と職員間で検討し、日々の業務や活動を見直す良い機会となっており、外部評価では普段業務では気が付かない新たな問題点の発見につながると理解し取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を本年度は3ヶ月に一度の開催を目指し、事業所に対する地域の理解をより深めるべく事業実践並びに業務統計の報告及び説明を行っている。委員からは入居者の生活ぶりや介護支援内容等についての質問が出された。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者・職員との信頼関係ができているため、家族からの意見等が表出しやすい雰囲気となっています。また今回の利用者家族アンケートからも、要望する事をしっかり受けとめて対処しており感謝の声が聞かれるなど、家族から出された些細な意見も取り上げ運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は「住まわれる方とスタッフと地域の方々と共に創る施設です」をスローガンとしており、地域とのつながりを重視しいろいろな機会を捉えて連携を働きかけている。また福祉専門学校生やホームヘルパーの実習の積極的な受け入れや一般職員も地域包括支援センターでの研修会等に参加し、交流が深められている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとして地域密着型サービスの意義を確認し、利用者・職員・地域住民との共生を目指した理念を構築している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日常業務の中で、個々の職員が判断に迷った時は常に理念に沿うよう促し、具体的ケアについて話し合いが持たれ、統一したケアが行われている。(またこれらのことが職員教育にもつながっている)		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事等で地域との接点を持つ取り組みが行われている。「みのり祭り」は家族や町内会・地域住民が心待ちにしており、また玄関前に飾る草花やホーム内の飾り物を提供してくれるなどホームが地域に密着していることがうかがえる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は職員には伝わっており、気付きの機会として取り組まれている。	○	今後においては、職員各自が自己評価表を記入するなどし、利用者がホームでの価値を見出せるよう、全職員で自己評価に取り組まれることを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については町内会役員・民生委員・家族・他事業所の介護支援専門員・スタッフの参加により、今年度は2回開催され、ホームの運営方針や企画、各委員との意見交換等も行われている。</p>	○	<p>今後においても定期的な運営推進会議の開催で、より幅の広い人々の参加のもと具体的な内容について話し合いを行い、サービスの向上に活かしていくことが望まれます。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や地域包括支援センターで開催される研修会等にも一般職員が積極的に参加し、サービスの質の向上につなげるよう取り組みが行われている。</p>		
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が面会等で来所の折には、その都度利用者の健康状態や近況を伝えている。また担当制で2ヶ月に一度「便り」を送付し、信頼関係の構築につなげている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的に気軽に会話できる雰囲気を作り上げている。またロビーには工夫された意見箱を設置するなど意見や苦情を表せる機会を設けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員の離職する状態を回避するため、ケアに対する主体性を尊重するなどし、働き続ける環境づくりに努めている。また離職などで利用者にダメージを与えないよう、配慮する取り組みをしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の自主性を重んじ、外部研修へも積極的に参加できる機会を与えている。また日常の業務を行う中で、指導を下すという姿勢ではなく、共に考えるトレーニングを重ね、職員個々のスキルアップにつなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協議会の役員として関わり、他事業所との交流や勉強会なども積極的に行われて、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスが利用できるように入居前には、利用者・家族の不安を解消する取り組みが行われている。また職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるよう食卓に付く位置も工夫し、配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はセンター方式を利用し、利用者一人ひとりの過去の大事な出来事や生活歴を家族の協力を得ながら把握に努め、本人の気持ちに沿った支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	2年半前からセンター方式を活用し、一人ひとりの意向や希望をまとめている。またアセスメントのみならず生活を支える側面も職員間で共有している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	センター方式の活用で利用者本位の介護計画が作成されるよう、都度本人や家族または医療機関との話し合いが行われている。必要時には担当者と評価を行い、それぞれの意見が反映された介護計画となっている。	○	今後においては、各担当者と更に話し合いの時間をもち、介護計画がより現場に反映されることを期待します。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的な見直しと都度体調に応じたプランの見直しが行われている。第一に本人の意志を尊重し、家族と十分な話し合いを行い計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の意見を聴きながら都度、状況、要望に応じている。また、実習生の受け入れや8月より訪問看護ステーションが併設され迅速な対応がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	これまでの受診状況や治療経過を把握し、希望する医療機関を受診している。また訪問看護師とも密に連携が図られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書等には看取り「指針」について文章化されたものはないが、家族には入居時と折りに触れこまめに口頭で説明し、医師・看護師と連携して慎重に対応するよう職員間で共有した取り組みがされている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声かけが行われ、誘導の際にも配慮されている。また面会簿ではなく、カード形式にするなどの個人情報保護にも努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や要望に配慮しながら本人の気持ちを大切に、自由にリラックスした環境で生活できるよう支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専門の調理職員がおり、利用者が力量に応じ、自主的に楽しみながら食事の準備に参加している。また食事量や好き嫌い等にも柔軟に対応されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に週2回となっているが、利用者の要望に応じ可能な限り対応している。またくつろいで入浴を楽しみたい利用者には大浴場にて支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の暮らしの中で「共に役割を持ち、生活の苦楽を共に」をモットーとし、畑仕事・食事の盛り付けなどの台所仕事が発自的に行われている。また晩酌や喫煙など利用者の習慣も保たれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、スーパーやコンビニでの買い物など自由な外出支援が行われている。また大根堀りやブドウ・サクランボ狩りなど気分転換や心身のリフレッシュができるよう職員の行事担当者が様々な企画を立案して、積極的に外出ができるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が国道に面しており建物の構造上、共有空間及び居室などが2階になっているため、本人・家族に理解を得て、玄関口から出る際はスイッチで開扉している。しかし職員間で話し合いを持ち、段階的に鍵を掛けない工夫も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者が中心となり、時には行事に合わせて行ったり、各消火器に懐中電灯を設置するなどの工夫が見られた。また緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるよう、利用者参加による火災避難訓練が年2回実施されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>減塩食・糖尿食、またアレルギー体質など個々人の疾患や体調に配慮し、適切な対応がされている。また夏季には水分係りを配置し、水分が摂れるよう工夫がなされている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な自然な空間の中で利用者同士がゆったりとした時間を過ごしている。大浴場の前にある小上がりで横になるなど、リラックスできる場が設けられ、またベランダには、広いウッドデッキがあり日光浴を楽しんだり、利用者同士談笑できるスペースが確保され気分転換ができるような工夫がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者本位で居心地良く過ごせる部屋作りに努め、タンスやベットなど使い慣れた家具を持ち込み自宅の延長の場となるような工夫がされている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。